

◎教育後援会が創立70周年記念式典、アイスショーを開催

次世代を担うスケーターが、華麗な演技を披露



関西大学教育後援会は7月2日、創立70周年を祝う記念式典とアイスショーを、たかつきアイスアリーナ(高槻キャンパス)にて挙行了。

教育後援会は、戦後の関西大学の教育環境を良くしたいと願う父母・保護者により、1947(昭和22)年に発足。以来、その規模や活動内容から日本最大級の教育後援会組織となり、教育後援会主催の各種懇談会等への参加者は毎年1万人を超える。

当日は約500人の来賓者が参席。記念事業の一環として開催された「こころに残る“私の関大”写真展」の表彰が行われ、最優秀賞受賞者に賞状と賞品が贈呈されたほか、関西大学体育会アイススケート部名誉顧問で日本スケート連盟会長の橋本聖子氏や、アイススケート部OBの佐藤信夫氏、高橋大輔氏をはじめ、フィギュアスケートのコーチ陣に記念品が贈られた。

続くアイスショーでは、関西大学に縁のあるフィギュアスケーターが約2時間半にわたり演技を披露。エキシビジョンでは、今シーズンからシニアデビューの本田真凜さん(高等部1年生)や、



白岩優奈さん(関大KFSC)が高度なジャンプを織り交ぜた迫力ある演技で会場を沸かせ、宮原知子さん(文2)がフルート、バイオリン、ピアノの生演奏をバックに3回転ジャンプを決めるなど圧巻の演技を見せ、観客はその美しい滑りに酔いしれた。

◎教育後援会「巨大災害を考える ―震災復興祈念 特別講演―」

震災の教訓を生かし、今後に備える



●芝井敬司 学長 ●河田恵昭 社会安全研究センター長 ●小山倫史 准教授

8月5日、関西大学教育後援会は、関西大学と校友会との共催により、「巨大災害を考える ―震災復興祈念 特別講演―」をTKP

ガーデンシティネストホテル熊本にて開催した。当日は、「熊本地震の教訓 ―きたる大震災に備えるために―」をテーマに、河田恵昭社会安全研究センター長(くまもと復興・復興有識者会議委員)が、熊本地震の教訓を踏まえ、大災害に備えて今すべきことを提言した。続いて、「熊本城築城と修復の歴史 ―復興に向けた課題―」をテーマに、小山倫史社会安全学部准教授(国土交通省近畿地方整備局 道路防災ドクター)が、熊本城の城郭石垣の築造・修復の歴史をたどるとともに、今後の復興に向けた課題について、過去の戦災や地震による被害状況等にも触れながら講演。約70人の聴講者は皆、熱心に聞き入っていた。

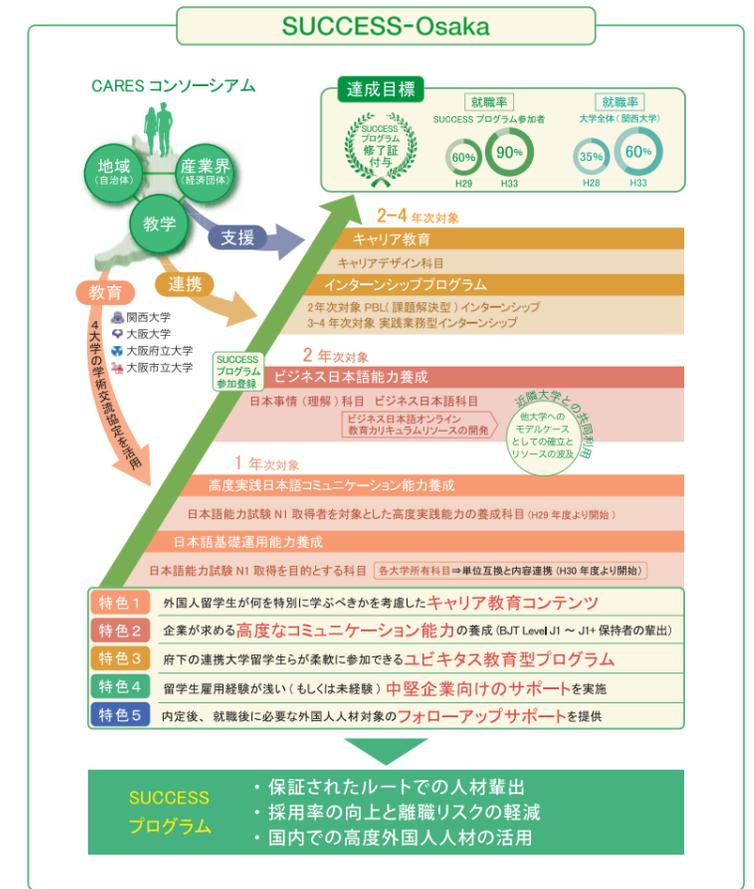
◎文部科学省「留学生就職促進プログラム」

留学生の日本社会での就職を支援する「SUCCESS-Osaka」

文部科学省「留学生就職促進プログラム」に、関西大学の申請事業「SUCCESS-Osaka (CARES コンソーシアムが推進する、留学生のための国内持続型の就職促進の取組)」が採択された。本プログラムは、日本国内でのキャリアを視野に入れる留学生を確実に就職へと導く(成功:SUCCESSへと導く)ことを目的としている。

関西大学は、2012年度に文部科学省「留学生交流拠点整備事業」に採択され、「H.O.M.E.千里交流拠点」を立ち上げ、地域の活性と外国人留学生の受け入れ促進にまい進してきた。また、2015年度からは、文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受け入れ環境充実事業」に採択され、「大阪・留学生住環境・就職支援サポートプロジェクト CARES-Osaka」を立ち上げて大阪の留学生増加を促進するとともに、留学生の日本での就職を前提とした定住支援や地域住民との共生に力を入れてきた。

今年度採択された本プログラムでは、学術連携協定および包括連携協定を締結している大阪大学、大阪府立大学、大阪市立大学を含むCARES コンソーシアム参画組織と緊密に連携し、留学生のキャリア教育コンテンツの形成をはじめ、高度なコミュニケーション能力の養成をユビキタス教育型プログラムを実施することで実現する。留学生の受け入れ経験の少ない企業向けの支援も推進し、初年次から卒業後までを視野に入れ、留学生と企業の結び付きを強化していく。



◎海外の学生が、関西大学で学ぶ4週間

Summer School 2017を実施



Summer Schoolは、外国大学等に在籍している大学生を対象として、PBL(Project Based Learning)科目などを含む英語で開講する専門科目を学べる短期受入プログラムである。受講生は、2週間または4週間にわたり、千里山キャンパスで専門科目を集

中的に学ぶことができる。学修時間は各科目45時間で、修了時には成績評価が行われ、単位互換に活用することができる証明書が発行される。

今年の参加者は約60人。PBL科目のフィールド調査では、EXPOCITY、リッツカールトン大阪、道頓堀等に赴き、日本のおもてなし文化の調査等を行うなど、日本文化や社会にリアルに触れることができる内容となっている。

このプログラムには、サポーターとして本学学生が関わり、日本語タンドム(言語交流学習)の相手役や、フィールド調査での留学生達の行動のサポート役を担当した。本学学生にとっても異文化理解の機会を享受できるため、今後の展開にも期待が寄せられている。